



## Google に感じたベンチャー魂

今月号の企業技術戦略研究ではGoogle日本法人を取材させていただいたが、そこで、昔なつかしいベンチャー特有の匂いを感じた。受付周りに並べられたロゴ入りノベルティ、ノーネクタイで行き交う人たち、社員が洒落で作ったという「電車でGoogle」などなど。1980年代、マイクロコンピュータの黎明期に米国を中心に登場したソフトウェアベンチャーが、この匂いを持っていたのを覚えている。たとえば、マイクロソフトやアップルも、当時はそれを持っていた。

辞書によれば、ベンチャービジネスとは「新技術や高度な知識を軸に、大企業では実現しにくい創造的・革新的な経営を展開する小企業」と定義されている(大辞林より)。Googleは、「世界中の情報を体系化し、アクセス可能で有益なものにすること」を会社の使命として掲げている。なんとシンプルかつ壮大な使命だろうか。「検索」は、デジタル情報を操作する際の要であり、その応用可能性は無限とも思える。この大命題を、コンピュータテクノロジーを駆使して具現化していこうとするGoogleの姿勢は、まさにベンチャーであり、多くの人の共感を呼んでいるに違いない。

「創造的」というのも組織として実現するにはむずかしい命題だが、Googleはこの点にも積極的に取り組んでいるようだ。詳しくは記事を読んでほしいが、「20%ルール」という社員のための自由な時間を設け、その風土の維持に努めているとのことだった。

取材を通して感心したのは、すでに巨大国際企業になっているにもかかわらず、上記したようにベンチャーの遺伝子を色濃く残していることだった。よく、ベンチャーは技術は強いが経営は弱いと言われる。会社が小さいときはいいが、組織が大きくなるとだんだんダメになっていく例は少なくない。逆に、売上順調で株式公開まで行くと、その遺伝子が変容し普通の大企業になってしまうこともある。しかしGoogleは、株式公開後もベンチャー魂を貫いているように見えた。公開時の目論見書に、「経営方針に賛同いただけない方は株を買わないでほしい」と書いたというのだから驚きだ。しかしそれでも、米国ナスダック市場は現在、Yahooより高い企業価値を与えている。

最近、日本でも再びベンチャー起業ブームが起きつつあるようだが、このGoogle社の事業姿勢や経営方針は、大いに学ぶべきものがあると思った。

井芹昌信 <iseri@impress.co.jp>



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)